

## 2021 年度事業報告

(2021. 4～2022. 3)

▽会員数 220 名、賛助会員 12 団体 (2022 年 3 月 31 日現在)

▽月例研究会 8 回開催 (オンライン開催)

2021 年 4 月 10 日 伊尾木将之「レシピ検索データからみるコロナ禍の影響」

6 月 12 日 所加奈代、小野未稀、中山圭子「新説 羊羹の歴史」

7 月 10 日 遠藤由美子「2020 年度食文化研究の動向」

9 月 11 日 粟井滋彦「地域食文化資源をビジネスに活かす視点と食文化研究・教育への応用可能性」

12 月 11 日 川口幸大「複層的な種」(multi-layered species) としての鮭/サーモン—日本、中国、そして世界」

2022 年 1 月 8 日 五島淑子「山口における幻の柑橘類クネンボの復活と資源活用について」

2 月 12 日 土田美登世「食を伝える側から感じた料理人および料理界の変化」

3 月 12 日 森下正博「なにわの伝統野菜 復活と普及」

▽第34回総会 日時 2021年4月17日 (土)

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、会場出席者 3 名 (部会長、副部会長、司会) とし、同時に Zoom にて開催した。Zoom 出席者 14 名、委任状提出 40 名、議決権行使書 4 名を合わせて、出席者 61 名により成立。賛成多数によって議案はすべて了承された。

▽夏期特別研究会

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、中止した。

▽研究発表大会の開催 日時 2020年11月21日 (日)

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、Zoom にて開催した。

### 【研究発表】

1. 謝春游「日本における中国人女性移民の食生活に関する人類学的研究—広島県在住の日本人の夫と中国人の妻の過程における日常の食事を事例として—」
2. 柳原尚之「江戸期における酢の使い方」

【石川松太郎食文化研究奨励賞】 謝春游氏に授与

▽「会誌 食文化研究」第 17 号発行 2021 年 12 月 25 日 300 部

○研究論文 川口幸大「料理テキストに見る日本の中華料理の受容と展開—『きょうの料理』を中心に—」  
治部千波「中世ヨーロッパにおける料理の視覚的発展—医学書と料理書にみるブラン・マンジェを中心として—」

深谷拓未「イタリアにおけるワイン生産と認証制度をめぐる現在—ガストロポリティクスから捉える文化人類学的食研究—」

○研究ノート 小池美穂「大正期から昭和初期における上巳の節供—文献調査からみえるひし餅の多様性—」

○資料 畑有紀「和歌形式の食物本草書の変遷—『永代重宝記宝蔵』所収「食物本草要歌」翻刻と解題—」  
中澤弥子「食文化および食育の視点からみた長野県における学校給食の現状と課題—2016 年時点での質問紙調査の結果から—」

○2020 年度石川松太郎食文化研究奨励賞受賞者の研究概要と現在の研究活動報告 佐藤将平

○文献紹介 関剣平著『中国古代茶文化史』中村修也、今村規子著『名越左源太の見た 幕末奄美の食と菓子』青木直己、池谷和信編『食の文明論 ホモ・サピエンス史から探る』阿良田麻里子、原田信男著『「共食」の社会史』吉野亨

○食文化研究の動向「2020 年度における食文化研究の動向」 遠藤由美子

▽会報の発行 8 月を除く計 11 回

▽関係文献・資料情報の紹介 No.404～414

▽「コロナ禍における食生活」企画委員会によるコロナ禍での食生活の調査を開始。

▽共同研究の推進など会員の研究発展に関する企画 「正月の行事食に関するアンケート調査」(和食会議との連携)、「江戸料理研究」(クックパッドとの連携) など